

訂正 「2. 復活の体についての聖書の表現」の「(2) 霊の体 (I コリ 15 : 34~44)」の中で、復活の体について、「霊のからだ」(44 節)と並んで、「40 節では『天上のからだ』とも表現されています。」と説明しましたが、それは誤りでしたので、訂正いたします。

40 節の「天上のからだ」は、原文では「天のからだたち」と複数形になっていて、41 節の太陽、月、星々を指しています。星を観察することを「天体観測」とも言うように、これらは一般的にも「天体」と呼ばれます。

「死者はどのようにしてよみがえるのか、どのようなからだで来るのか=死者の復活などあり得ない」(I コリ 15 : 35) という主張をする人に対して、使徒パウロは、36 節「愚かな人だ」とし、以下 49 節まで次のように復活について説明します。

箇所	対比：復活前の体	対比：復活の体
36 37 38	(例えを用いて) あなたの蒔く物は、死ななければ、生かされません。あなたが蒔く物は、後にできるからだではなく、 <u>麦やその他の穀物の種粒</u> です。	しかし、神は、みこころに従って、それに体を与え、 <u>おのおのの種にそれぞれの体をお与えになります。</u>
39 40 41	(<u>おのおのにそれぞれの体があることの説明</u>) すべての肉が同じではなく、 <u>人間の肉</u> もあり、 <u>獣の肉</u> もあり、 <u>鳥の肉</u> もあり、 <u>魚の肉</u> もあります。また、 <u>天のからだたち</u> (太陽、月、星々の天体) もあり、 <u>地のからだたち</u> もあります。・・・(創世記 1 : 26→24→20→14) 天のからだたちの栄光と地のからだたちの栄光とは異なっています。 太陽の栄光もあり、月の栄光もあり、星の栄光もあります。個々の星によって栄光が違います。	
42 43 44a	死者の復活も <u>これ</u> と同じです。 朽ちるもので蒔かれ、 卑しいもので蒔かれ、 弱いもので蒔かれ、 <u>魂の体</u> で蒔かれ、	朽ちないものによみがえらされ、 栄光あるもので蒔かれ 強いものによみがえらされ、 <u>霊の体</u> によみがえらされるのです。
44b 45 46 47 48	(<u>霊の体があることの説明</u>) 魂の体があるのですから、 <u>霊の体</u> もあるのです。 聖書に「 <u>最初の人アダムは生ける魂</u> となった」(創 2 : 7) と書いてありますが、最後のアダムは、 <u>生かす霊</u> となりました。 最初にあったものは <u>魂のもの</u> であり、 <u>霊のもの</u> ではありません。霊のものはあと。 第一の人は地から出て、土から造られた者ですが、第二の人は天から出た主です。	
48	土で造られた者たちはみな、この土で造られた者に似ており、	天の者たちはみな、この天から出た方に似ているのです。
49 結論	私たちは土で造られた者のかたちを着たように、	天の方のかたちを着るであろう。(ロマ 8 : 29 「御子のかたちと同じ姿」)